

流域治水対策(河川)【国土交通省】



事業概要

近年の頻発化・激甚化する水災害に対応するため、気候変動による影響を踏まえた、河川における河道掘削、堤防整備、堤防強化、耐震対策、ダム・遊水地の整備等を実施

効果

大雨による浸水被害を防止または大きく軽減し、国民の生命と財産を守ることに寄与

全国的な対策と効果

対策1 平成30～令和6年度にかけて約**11,500万㎡**(ダンプトラック約**2,310万台**)の河道掘削を実施



対策2 ダムの事前放流を実施(令和6年8月台風第10号による大雨時は全国**136**ダム)



5か年加速化対策の効果

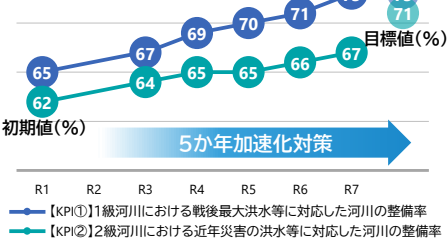
直近の大雨と過去に大規模な浸水被害をもたらした同規模の降雨による浸水戸数の比較					
①	庄内川水系土岐川	【H23.9洪水】	622戸	➡	【R5.6大雨】 2戸 (約 99% 減)
②	大和川水系大和川	【H29.10洪水】	258戸	➡	【R5.6大雨】 43戸 (約 83% 減)
③	筑後川水系花月川	【H24.7洪水】	720戸	➡	【R5.7大雨】 11戸 (約 99% 減)
④	筑後川水系赤谷川	【H29.7洪水】	258戸	➡	【R5.7大雨】 0戸 (100% 減)
⑤	雄物川水系雄物川	【H29.7洪水】	705戸	➡	【R5.7大雨】 0戸 (100% 減)
⑥	小本川水系小本川	【H28.8洪水】	602戸	➡	【R6.8大雨】 0戸 (100% 減)

予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
4,067億円	2,846億円	2,936億円
R6	R7	累計
3,128億円	2,598億円	1兆5,575億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

目標達成の見通し



効果発揮事例

河川の流域治水対策により、浸水被害を軽減する



国土交通省
大和川河川事務所
大和川流域自治体



奈良県奈良市、北葛城郡王寺町、
生駒郡三郷町、磯北郡田原本町

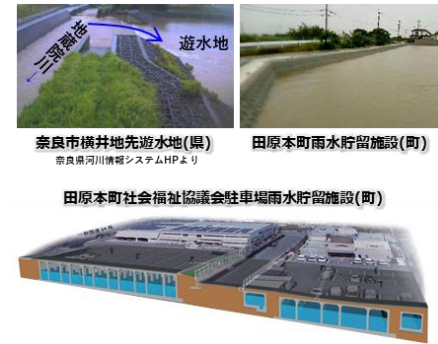


大和川
流域治水整備事業など

河川整備の状況



貯留施設の状況



事業費

419億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分) **85億円**)

事業の背景(地域の課題)

大和川(奈良県域)は、奈良盆地の低平地を流れており、狭窄部から放射状に広がる156本の支川が本川に集中するなど、水害が発生しやすい特性を有しています。また、高度経済成長期の急激な都市開発等によって水田やため池などが減少、保水機能が著しく低下し、都市型水害が頻発しており、水災害への対応が求められていました。令和3年12月には特定都市河川に指定するとともに、大和川流域水害対策計画を策定し、関係者が協働して流域治水の本格的実践に取り組んでいます。

事業の内容

大和川水系では、河道掘削・遊水地等の河川整備に加え、貯留施設整備やため池の治水活用等の流出抑制対策など、流域治水の取組を実施しました。

効果

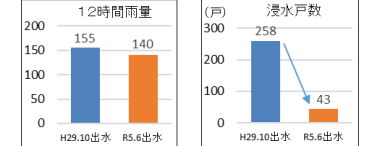
令和5年6月梅雨前線による大雨では、大和川流域で平成29年10月出水と同規模の雨量を記録しましたが、河道掘削や遊水地・雨水貯留施設の整備など、流域全体での治水対策により、浸水戸数が大きく減少しました。



沿道の浸水状況<H29.10時点>



※柏原地点上流の流域平均雨量(mm)



人命・財産の被害最小化
激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

交通・ライフラインの維持

インフラの老朽化対策

国土強靱化に関する施策を効果的に進めるためのデジタル化等の推進

災害関連情報の高度化